

平成26年11月28日

第128号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



コンテナ苗を活用した「一貫作業システム」実証試験検討会（茨城県城里町）
（撮影者：茨城森林管理署業務グループ）

レクリエーションの森を活用した地域振興の取組

（群馬県片品村むらづくり観光課に聞く）

計画保全部 保全課

私と国有林

「高尾山（周辺）国有林の魅力を伝える」

高尾グリーン・サポート・スタッフ 関 博俊

幹部の紹介

(11月1日付け)

計画保全部長

井出 光俊
い で み っ と し

〈略歴〉

出身 神奈川県

昭和61・4 林野庁入庁

平成8・4 林野庁指導部研究普及課

国際研究連絡調整官

平成10・10 沼田営林署長

平成13・4 林野庁森林整備部整備課

課長補佐(企画班担当)

平成16・4 佐賀県技術吏員

平成21・4 林野庁森林整備部治山課

山地災害対策室長

平成23・5 林野庁林政部経営課

林業労働対策室長

平成26・11 関東森林管理局計画保全

部長

森林整備部長

寺川 仁
て ら か わ ひ ろ し

〈略歴〉

出身 広島県

昭和61・4 林野庁入庁

平成7・4 新得営林署長

平成9・4 帯広営林支局企画調整室

長

平成11・4 総理府第4調査研究グル

ープ上席研究官

平成13・4 林野庁森林整備部整備課

課長補佐(造林事業班担

当)

平成17・4 林野庁国有林野部業務課

課長補佐(総務担当)

平成19・4 宮崎県環境森林部次長

(技術担当)

平成21・4 大臣官房政策課調査官

平成24・4 林野庁森林整備部研究・

保全課森林保護対策室長

平成25・7 関東森林管理局計画保全

部長

平成26・11 関東森林管理局森林整備

部長

レクリエーションの森を活用した地域振興の取組

(群馬県片品村むらづくり観光課に聞く)

計画保全部 保全課

関東森林管理局では、地域の要請等に応じて、280箇所、58,788畝のレクリエーションの森を設定し、野外スポーツ、自然観察及び森林浴等として国民の皆様にご利用して頂いています。

当局管内に所在する市町村の中でも、スキー場としての活用をはじめとして、多くの森林レクリエーションの森が設定され、2015年の冬季国民体育大会の開催が予定されている群馬県利根郡片品村における、国有林野内のレクリエーションの森を活用した、地域振興の取り組みをむらづくり観光課からお伺いしました。

保全課…片品村内の国有林には、武尊自然休養林やオグナ・ほたかスキー場、尾瀬戸倉スキー場など、多数のレクリエーションの森が設定されていますが、レクリエーションの森は片品村の地域振興にどのように寄与していますか。

片品村…片品村の基幹産業は農業と観光の2本柱ですが、レクリエーションの森の中に位置しているスキー

場やキャンプ場などの施設は片品村の観光施設にとつて大変重要なものになっており、その施設より得られる利益や雇用創出は片品村の振興に大いに役立っています。



オグナ・ほたかスキー場

保全課…レクリエーションの森を活用し地域振興を進めていくには、レクリエーション事業を行っている事業者の方の協力と連携が重要になると思います。片品村は事業者の方々とどのような協力・連携を行っていますか。



武尊牧場クロカンコース

片品村…村内には6つのスキー場があり全てのスキー場が片品村スキー場連絡協議会に加盟していて協力・連携しています。片品村につきましては村長が代表者でもあり事務局を担当している片品村観光協会を通して、利用者の安全対策や施設の充実、クレーム対応等の統一を図り、利用者の増加を推進しています。

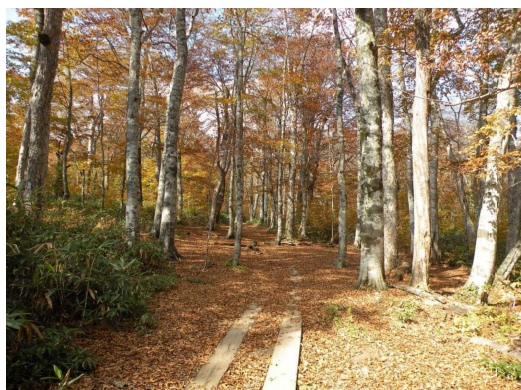
保全課…2015年の冬季国体が予定されていますが、冬季国体開催に関連して、国有林野内のレクリエーションの森の活用などを考えていますか。



尾瀬ヶ原

該地点に位置しており、冬季間だけではなく夏季のランニングコース等にも利用可能です。国内屈指の高地トレーニング場として周辺レクリエーションの森と一帯となることで、利用者の増加を図っていききたいと思います。

保全課…今後も片品村の地域振興のため、レクリエーションの森を活用していただけたらと考えていますが、レクリエーションの森を活用して行くうえで、片品村で検討していることや国有林に対して要望等がありますか。



武尊牧場遊歩道

(写真提供…群馬県片品村)

今回は、片品村むらづくり観光課にお話を伺いましたが、今後も管内に設定されているレクリエーションの森が地域振興に寄与するよう、地域の皆様の意見を反映しながら、レクリエーションの森の整備を図っていききたいと考えています。

やはり必要ですが、車で近くまで手軽にレクリエーションの森に行き、野外スポーツ、自然観察及び森林浴等がおこなえればレクリエーションの森に対して親近感がさらに得られ利用者層も広がると思われます。利用者よりアクセス道路や駐車場等の整備を望む声を聞きます。整備の際には一緒に検討いただければありがたいと思います。

今月の表紙

コンテナ苗を活用した「一貫作業システム」実証試験 検討会（茨城県城里町）

写真は、関東森林管理局森林技術・支援センターと茨城県森林管理署が、茨城県城里町の国有林で「コンテナ苗を活用した一貫作業システム現地検討会」を開催したときの様子です。

この作業システムでは、先行している九州地方で再造林コストの低減が報告されており、これを当署管内で実施した場合の実証試験を、平成25年度から取り組んでいるものです。



国有林モニター会議を開催

総務企画部企画調整課

関東森林管理局では、国民の皆様の声を国有林野の管理経営に役立てていくため、国有林モニター制度を設け、現在70名の方に依頼しています。

国有林モニター会議は、国有林モニターの方へ国有林野事業を紹介するとともに、直接ご意見を伺うため毎年開催しており、今年は去る10月10日に、栃木県那須郡那珂川町において開催しました。

当日は、各都県より8名の国有林モニターの方々に参加いただき、国有林内での高性能林業機械を用い



高性能林業機械の説明を聞く参加者の皆さん



那珂川工場の方の話に
熱心に耳を傾ける参加者の皆さん

た素材生産の様子及び県北木材協同組合那珂川工場の視察をした後、意見交換会を行い、短い時間ではありましたが国有林野事業の一端に触れていたできました。

意見交換会では、森林の大切さ、国有林野事業についてのPR活動に力を入れて欲しいとの意見を多数頂戴いたしました。いただきましたご意見については、今後の国有林野事業に活かせるよう励んでまいりたいと思います。

参加された国有林モニターの方々におかれては、遠方からお忙しい折にご参加いただき、誠にありがとうございました。

参加された国有林モニターの方々の声をご紹介します。

Aさん

現地視察をする前までは、民有林、国有林ともに間伐材の伐採は人力で行う為にコストが高く採算が合わなくて放置されているのではと思っていました。

今回の視察ではじめて高性能林業機械による間伐材の伐倒、枝払・玉切、集積の一連の作業を身近に見て、機械化が進んでいて低コストで出来る理由が良く分かりました。私は土木技術者として全国各地の高速道路や橋梁の仕事に従事していましたので、特に作業道路をどのように施工するのか興味がありました。7200mもの作業道路を施工するには、測量及び設計図面作成に多額の金額がかかるのではと思っていましたが、詳細な図面は必要なく、重機のオペレーターが現場に合わせて施工すると聞いて、低コストで出来る理由が理解出来ました。

間伐材を利用して是那珂川工場の見学では、建築資材の製造、バイオマス発電、廃熱を利用したマンゴー育成などの一連の作業が良く理解出来ました。実際に視察する事で理解できた事も多かったもので、今後多くの人達に見学の機会を与えて頂く事を期待したいと思います。

Bさん

今回のモニター会議は国有林についてでしたが、日本全体で見ると国有林が3割、民有林が約7割となっ

ているのを知って、民有林についても運営していく方法が必要なのではないかと思いました。

林野庁の職員も昔に比べてかなり削減されたということでしたから、国有林の管理だけでも大変なのだろうと推察されます。

しかし森林という意味では、国有でも民有でもかわらないのではないかと思います。両者を含めた方策を、林野庁には出してもらいたいと思います。

その際に考えなければならないのは、やはり採算性でしょうか。木を切るには近くに道がなければなりません。現状では道の近くでしか伐採できないと言われています。道の近くでない木も切り出して、採算をとることができるような方策がないのか検討していただきたいと思いました。

Cさん

会議については、もう少し時間があるとより建設的な意見がでたと思います。一時間内での論議で多少急ぎ足だったと思います。

(担当より)

会議(意見交換会)の時間については、ご指摘のありましたように急ぎ足になり、大変申し訳ありませんでした。

今回の反省を活かし、次回のモニター会議では建設的な意見が伺えるよう工夫していきたいと思っています。

第54回治山研究発表会が開催されました

計画保全部 治山課

治山研究会主催の治山研究発表会が10月8日～9日に東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで各森林管理局、地方公共団体、民間事業体等の参加のもと開催されました。

【治山研究発表会】

発表に先駆けて、独立行政法人国立環境研究所環境都市システム研究室長の脇岡靖明氏による「気候変動による影響と適応」について特別講演が行われ、顕在化しつつある地球温暖化によるアジア及び日本への影響や、緩和策及び適応策についての取り組み事例等を紹介されました。

本発表会では「大規模崩壊、地すべり、土石流等の取組」「森林造成、



治山研究発表会開会式



発表する大井川センター（飯島）



発表する治山課（川野）



治山シンポジウム

整備等の取組」「環境保全、木材利用等の取組」「施設の管理、コスト削減等の取組」の4つのセクション別に計39の課題が発表されました。

当局からは「大規模崩壊、地すべり、土石流等の取組」のセクションで、大井川治山センター飯島技術専門官と日鐵住金建材株式会社土木鉄構商品部土木鉄構商品営業室大隅久シニアマネージャーによる、平成23年9月の台風15号により被災した荒廃溪流の復旧について検討施工した「セルダムの施工について」と「環境保全、木材利用等の取組」のセクションで、関東森林管理局治山課川野調査係長と応用地質株式会社地球環境事業部自然環境部鈴木洋一郎主担による、我が国で初めて実施した

過去に設置した治山ダムの中央部撤去の経緯を含め、溪流環境の復元と山地防災の両立を目指した計画と施工の結果についての報告「流域環境の復元と山地防災の両立を目指した計画と施工」赤谷の森（茂倉沢）における試み」が発表されました。

【治山シンポジウム】

また、2日目には「健全な水循環における森林の役割」をテーマにしたシンポジウムが開催され、水資源の安定的確保や水害の増大の懸念など水への関心が高まっている中、森林と水に関する科学的知見を共有し森林の役割や豊かな水を育むための森づくりのあり方について、座長に北海道大学大学院農学研究院の中村太士教授を迎え、各界有識者による話題提供及びパネリストによる活発な議論が行われました。

「中越地区直轄地すべり防止事業」完成記念植樹式を開催

中越森林管理署

平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震による地すべり災害の復旧を図るため、中越森林管理署では長岡市、小千谷市の中山間地域の11地区において、平成17年度から総事業費120億円をかけて「中越地区直轄地すべり防止事業」を実施してきました。このたび、本年度予定していた2地区の工事の完成をもって全ての工事が完成したことに加え、本年が被災後10年という節目の年に当たることから、施工地の一つである小千谷市稗生（ひう）の「中つるね地区」において、「中越地区直轄地すべり防止事業」完成記念植樹式を10月19日（日）に来賓の方をはじめ、県・市の関係者、施工業者、地元町内会や児童など総勢約100名の参加を得て開催しました。



代表者による記念碑の序幕

「私と国有林 高尾山(周辺)」

高尾グリーン・サポート・スタッフ 関 博俊



森林保護員(鹿島)の作業
(歩道上の倒木処理)

高尾山は都心から気軽に行ける自然豊かな山として人気が確立されています。各メディアもミシユランで三ツ星を獲得して以来、頻繁に番組で取り上げています。この影響もあり老若男女幅広い世代が訪れます。その動機も①登山の入門コース②豊富な植物の魅力③薬王院を中心とした観光④子供達の遠足⑤家族での散策など様々であります。

その高尾山一帯の国有林では4名の森林保護員が登山道周辺の危険木処理、植生保護や盗掘防止、植物解



平成26年2月の大雪時の高尾の様子

説、ハイカーの安全確保とマナー向上など多岐に亘る活動をしています。それは視線に腕章の重みを感じながらの活動でもあります。

その中で特に心掛けているのがハイカーの安全確保です。そのために次の二つに注力しています。一つは枯損木、落枝、倒木などの確認、処理と報告などの基本的な活動によるものです。もう一つは、ハイカーへの直接的な声掛けです。低山だからと安易な気持ちで靴、装備、地図の不所持、過飲など無防備で登山する人が多くいます。季節毎にハイカーへ

の注意喚起は多少差があります。特に、晩秋から冬は日没時間を考慮し、ライト等の装備確認や下山ルートなどを助言し、凍死など万が一の事故を防ぐ取組をしています。その中で事故に遭遇する機会も度々あります。今年も大雪でビバークした高齢者の保護、飲酒による滑落者の引き上げなどがありました。低山とはいえ多くの危険が待ち構えている事例です。

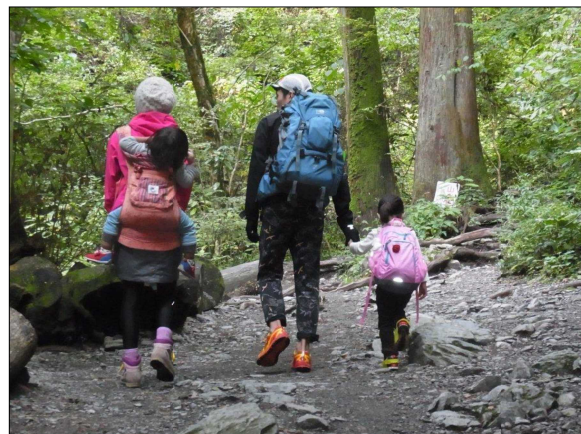
一方で微笑ましい若い親子に出会うと安全確保は大変重要な事だと改めて認識します。また遠足の下見に訪れた先生方からアドバイスを求められるケースもあり、子供達の安全に拘る緊張感を味わう事もあります。さて最近では希少植物の盗掘やゴミ



子供達の遠足

捨てなど訪れる人のマナーが低下しているのが残念であり、気掛かりです。そこに少しでも歯止めを掛けたいと思っています。そのための取組とは何かを森林官や都レンジャーなど関係機関と連携し打ち出す事が重要になると思っています。

また引き続き各世代の人々が安全に楽しく高尾山の自然を満喫できるように登山道の整備、植物の解説、コース案内やアドバイスなど基本的な事を確実に実行したいと思っています。ハイカーから頂く『有難う』『ご苦労さん』が多くなるのが高尾山国有林の魅力が浸透した指標かも知れません。これからも高尾の森の保全、マナー向上や国有林への関心を持つて頂けるような活動を心掛けて行きたいと思っています。



家族での散策

森づくり最前線

天竜森林管理署 首席森林官（水窪・門桁） 小出 勝也

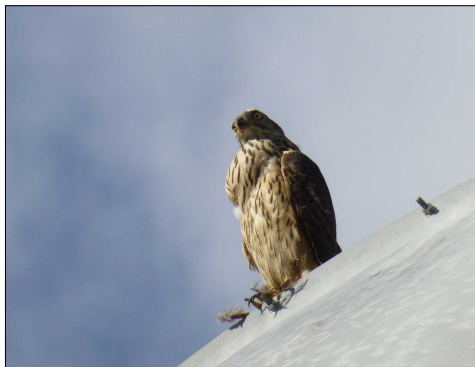


黒法師岳から続く
南アルプス深南部の山々

当森林事務所は、浜松市北部、長野県境に位置する天竜区水窪町内の10905鈔を管理しています。天竜川支流の気田川及び水窪川の源流部であり、モミ、ツガ、ブナなどによって構成される天然林と、古くから林業生産活動によって造成されたスギ、ヒノキの優良な人工林で構成されています。

管内は、白倉、戸中山、門桁の三地区に大別され、南アルプス深南部と呼ばれる中ノ尾根山2296㍔を最高峰に浸食作用が激しく、起伏量が大きい急峻な地形を呈しています。一、白倉地区

中ノ尾根山周辺は「南アルプス南部光岳森林生態系保護地区」のバッファゾーン（保全利用地区）に指定されているほか、植物群落保護林「中ノ尾根の森林」があり、国内では既に絶滅したとされていた「マンシュウクロカワスゲ」、県内では正



狩り終えた直後の
今年生まれのオオタカ

式確認のない「コハクラン」の生育が確認されたほか、クマタカ等貴重な動植物が生息しています。

二、戸中山地区

西俣沢起点を中心にイヌワシの生息が確認されています。

特に、先般行われた希少種委員会の中でイヌワシ2羽の若鳥が確認され東海地方で随一の繁殖地と驚きをもって報告されました。

また、この地区は登山者に人気の高い黒法師岳2067㍔があり多くの登山者が訪れています。反面毎年遭難騒ぎがあり、その多くは連休中に発生し地元警察署、消防署等と連携を取りながら森林管理署として対応を図っています。今後は登山道の明示等の具体策を講じ遭難させない工夫も図っていききたいと思っています。

平成23年台風12号によって中俣沢に出来た土砂ダムは現在では安定していますが、今後も注視していかなくては

三、門桁地区

コガネ沢林木遺伝資源保存林は、天然林のブナ、イヌブナ、キハダ等の遺伝資源の保存を目的とし、平成5年に設定された、原生状態を保つたこの地方の代表的な天然林です。営林署時代はこういった天然林の多くが伐採され、スギ、ヒノキの人工林として再生しています。

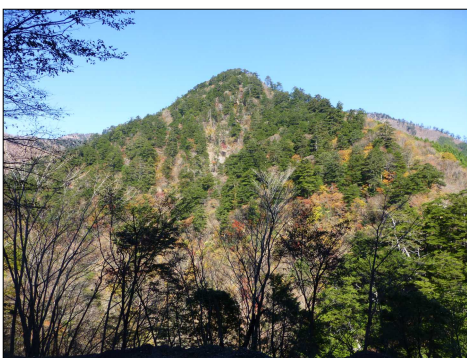
その人工林では、シカ、クマによる剥皮等の被害を受けています。当地域は従来より、有害鳥獣駆除を実施していることもあり、ある程度は頭数管理が出来ていると思います。しかし、主伐期を迎える木を見れば、多くがクマ剥皮の被害を受けており材価の低下が懸念されています。

また、搬出にしても先述した様に急峻な地形と脆弱な地質を抱えており、作業道の作設には限界が有り、架線による搬出方法に頼らざるを得ないのが現状です。今年度ヘリコプ



中俣沢にできた
土砂ダムの現在の様子

ばいけません。



コガネ沢林木遺伝資源保存林

ター集材を実施しましたが、希少種（クマタカ・イヌワシ）に配慮した飛行ルートを選定する等制約の中で、思うように搬出できないのが現状です。

この地域の森林施業は、希少な動植物の保護を最優先とするのか、効率的な木材生産事業を図るのか、地域ごとの再エリア分けが今後重要になってくると思います。

特に、生産事業については、架線集材による低コストで効率的な作業システムの必要性が高まりつつある中で、今何とか民間で持ちこたえている架線作業技術の継承を進めることが今後重要と考えます。管理経営を考えると、国有林の中の貴重な財産の保全と活用を両面をどのように図っていくのが課題でもあり、関係機関や地域と連携して課題解決のため取り組みを進めていきたいと考えています。

管内のいちおしスポット



全国緑化行事 発祥の地 (林業遺産)

■ 茨城森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/ibaraki/index.html>
〒310-0852 茨城県水戸市笠原町978-7
TEL:029(243)7211(代表) FAX:029(243)7125



真壁町から望む筑波山(○印が発祥の地)】



「発祥の地」記念碑

第1回の記念植樹が行われたのが、当署(旧笠間営林署管内)が管轄する鬼ヶ作国有林内の〇、12畝でした。

しかし、この植樹箇所は、時がたつにつれ次第に忘れられていましたが、昭和60年5月に、旧笠間営林署の保存文書等から場所が特定され、第1回記念植樹祭当時の生き証人等による現地調査により、当地が確認されました。現在、当地は、樹齢81年生のスギ・ヒノキ林となっており、林内には「全国緑化行事発祥の地」の碑文が刻まれた記念碑が建立されております。また、NPO等により第1回植樹当時の作業道を修復する作業等が行われています。全国植樹祭の原点となった当地に一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

(茨城森林管理署広報広聴連絡官)

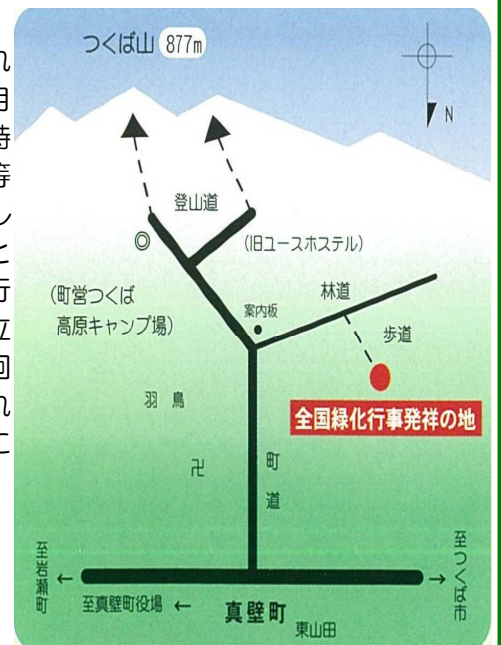
富士山と対比して「西の富士、東の筑波」と称される筑波山。その山麓に「全国緑化行事発祥の地」があります。

この「全国緑化行事発祥の地」は、今年の3月、日本森林学会が林業発展の歴史を示す景観、施設、跡地等の具体的な対象の選定を通じて日本各地の林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録していくための試みとして行った「林業遺産」選定において、「全国植樹祭に繋がる愛林日における植樹行事が初めて挙行された場所」として全国で10件選ばれた中の1つに認定・登録されました。



林業遺産認定証

ところで、愛林日のことをご存じですか？愛林日は、昭和25年以来毎年行われている全国植樹祭の原点であり、愛林思想の普及と植林の推進を図るため、昭和8年に、4月2日から4日の3日間を「愛林日」とすることが定められました。そして、その翌年昭和9年4月の愛林日に



編集所
F T
A E
X L
(00
22
77)
22
31
00
・
11
31
95
38
総関東森林管理課